



ららばい、通信

2024年
春号

特集
危ない時代の衣・食・住



画／大野隆司

[目 次]

- 特集 危ない時代の衣・食・住
上原 孝子・安岡 富士子・宇津崎 光代 …1
- 唄のページ・投稿 …6
- 連載
こりゃ誰が手車 わらべうた 童謡 詞華抄6 尾原 昭夫 …8
- 連載 子ども虐待は、今
子どもの意見 川崎 二三彦 …12
- 連載 日本子守唄紀行
「金子みすゞの子守唄」(山口県) 鵜野 祐介 …14
- 連載
人生の幸せは米寿にあり 帯津 良一 …16
- COLUMN／ねんね守の歌 長田 暁二 …18
- 連載 直島便り
石にぬくもりを感じて 山根 光恵 …19
- 活動報告 …20
- ひとりで悩まず相談して!! (相談窓口一覧)
- 寄付者名簿

令和6年

ららばい通信 春号を

お手元にお届けさせていただきます。

陰陽五行説という自然界の中にイノシシが置かれたのは中国が最初です。

日本の文化にはすぐに取り入れられました。中国では、猪(亥)の月は10月とされていて、亥の子は多産ということでその月の祝いに発展し伝わったようです。

多産が増えるというところから繁殖を意味し、子も作物も財産も増えることを願い、亥の子さまを神としてまつることから広まったようです。

「亥の子」の行事は、「亥の子まつり」、「亥の子餅」を食べる、田の土開き、炬燵の出し日、亥の神を大黒様として祭るなど、亥の子にことよせて祝い事に使われ、行事は各地によつてさまざま違い全国に伝播していきました。そして、次第に豊作を願う「農祭」の儀式として伝承されていくようになりました。

あれから長い歴史を経て、今ではそんなお祈りも行事も続いているというところは皆無だと思われず。イノシシは今では害獣中の害獣、繁殖力のおかげで目の敵にされて駆除の対象となっています。イノシシも変われば変わるものだと思われていることでしょう。

今年もまだまだイノシシ受難は続くでしょうが、神の位から害の位に落ちる変化があるということは人間にも言えそうですね。

日本子守唄協会 理事長 西館好子

変化という進歩

日本子守唄協会 理事長 西館好子

AIが取りざたされている。

人間の脳はコンピューターより豊富な能力を持っているとされているが、それよりさらに発展した機械の分析力にはかなわないということだろうか。AIを開発したのは人間なのだから、その制御から

いほできるだろうと思うが、やがて「2001年 宇宙の旅」のようにコンピューターが反乱を起こす事態はひよっとすると起こるかもしれない。

自然の脅威も怖いですが、心を持たない機械によって破壊される未来はもっと怖い。

この頃、あらゆる場面で「これが人間だろうか」と考えこむことが多い。尊属殺人が多くなった家族のありよう、教育や宗教の劣化、政治の腐敗、なにか起こるたびに「えっこれって人間？」と根源から考えさせられる。自分も始終「私って人

間？」と自問自答している。都度、「まだ人間、だって人間でありたいもの」と自分に言い聞かせている。

狩猟、農業、工業、情報、人間の世界はこんな風に変化してきたが、まさかこの先、機械、金などにながれないことを祈っている。生活が全部機械化され、命も道德の価値も金のみで生きるなんて絶対したくない。あつてほしくないと願っている。

特集

危ない時代の衣・食・住

生活に欠かせない衣食住。すべてが劣化し始めています
憂いつつ、活動をしつつ、なお実践している三人の女性たちの声を

絹の記憶 そして今



上原 孝子
手しごとや (富岡在住)

朝目覚めて居間へ行くと「サワサワサワ」と蚕が桑を食む心地よい音がしていた。祖母はたった5グラムの蚕種を小さな畑で桑を育て丁寧大事に蚕を育てていた。

桑を沢山食べる時期には「サワサワ」の音は更に

大きくなってくる。

やがて、蚕は全身が透き通って繭を作る準備に入る。透き通ってきた蚕は、木で作られた盆に集められて、「マブシ」と呼ばれる手作りの藁製の繭作りの場所にばらまかれる。「マブシ」で居場所が決まると、ただひたすら自分の周りに口から糸を吐き出している。初めのうちは、繭造りの様子を見る事が出来たが、白い糸が重なり中の蚕の様子は見えなくなる。

何日か経ち、繭の周りにはまだ糸を張るための糸「ケバ」と呼ばれる汚れた糸がついている。それを取り除いてみると、白い繭はみごとにきれいな白だ。座繰り器で繭を糸にし、両手両足を器用に動かして、祖母は機を織っている。その姿は今も私の目に焼き付いている。

織られた白く輝く反物を着物柄に染めてもらい、長い袂の着物を作ってもらった。小学6年生の時である。

正月には、新しく赤い下駄を買ってもらい、誇ら

しく着物を着ていた。柔らかくふんわりと軽く暖かく体にまとわる優しい感触、思い出に残る絹の着物との出会いである。その着物は今も大事に箆笥に収まっている。今から70年近く前の事である。

絹に魅せられたのは、この時からだったかもしれない。後に羽織はドレスに直し、妹に着てもらったがそれは私の初の「着物リメイク」だった

富岡製糸場は赤レンガ作りの洋風な建物で明治5年に建設された日本で最初の官営の輸出専門の製糸工場だ。不思議な形のアーチ、大きな煙突、長い建物の長い織場、何もかもに驚かされた。昭和62年、115年という長きにわたって栄えた工場も操業停止、建物はそのまま眠りについていた。

私は退職後『富岡製糸場を世界遺産に』を願って、富岡製糸場を愛する会・富岡ユネスコ協会・富岡製糸場世界遺産伝道師として様々な活動に関わってきた。

〔製糸場を愛する会〕は女性陣6名で立ち上げた(絹の部会)で(着物着装が遠ざかっている)へ家にある着物や帯が捨てられているという現実を目を向け(製糸場をアピールをする活動)と結び付ける視点で着物を着るチャンスを作る事だった。

まずは「着物で花見ファッションショー」を立ち上げた。市民に参加者を呼び掛けた。

4月の観桜会に藤岡や安中高崎前橋方面から40名を超える人が参集してくれ、参加者は、思いのある着物を着て花見やショーを楽しんでくれた。時に突風が吹き、金屏風は倒れ、参加者の髪や着物姿も乱れ、司会者はマイクを握りしめという悲惨な年もあったり、桜も満開有り、蕾あり、葉桜の時もあり、花びらの舞う中でのショーには様々な思い出がある。今から10年も前の事である。



日本創世の会 創刊号

社会教育館での活動「富岡製糸場を世界遺産に」の活動は、更に仕事に追い打ちをかけた。この間毎月「癒しと元気」をテーマに7・8つの講座を企画した。まず大方は、絹の文化の継承に繋がる企画だった。

「目からうろこの着物リメイク」「着付け講座」「絹の小物づくり」「草木染」等。

着物リメイクは、着なくなった着物を活用するものだった。草木染めは藍の種まきから挑戦して生葉藍染を続けたし、玉葱生産農家から皮を大量に頂き、宿泊施設だった館の鉄の大釜で、派手な着物も鉄焙煎で染め、着物リメイクに活用した。

年度末には講座の参加者の絵画や絹の小物や染めたマフラー・陶芸作品リメイク作品の展示会及び着物着装と着物リメイクのファッションショーも実施、賑わいに喜んだことも懐かしい。そういえば、劇「富岡製糸場ものがたり」の上演に当たり、衣装を担当したりしたこともあった。

「着物リメイク」の継続

活動を続ける中で、着物の入った筆筒を捨てなければならぬとの情報が寄せられた。着物が捨てられる時代が来たのかと感じた。このままでは着物文化は、廃れてしまう、絶えてしまうのかと危機を感じたのはこの頃からだった。着物リメイクの講座も考え頂いた着物を活用せよという事にした。

富岡製糸場を「ユネスコ世界遺産」に活動を始めて11年目、とうとう悲願は達成され富岡製糸場は「ユネスコ世界遺産」に登録された。忘れもしない登録発表の日4,000名以上の関係者が富岡小学校の講堂に待機し、ドーハからの発表を待った。「富岡製糸場ユネスコ世界遺産登録決定」の一報が入ると「ウオー」と歓声が上がりとよめきぎが起きた。待ちに待った「富岡製糸場ユネスコ世界遺産

登録決定」だった。

決定の夕暮れ人々が富岡小学校より富岡製糸場までの約1kmを「提灯行列」で盛り上げ決定を祝った。この地がこんなに誇らしく思ったことはない。富岡の人誰もがそう思ったはずだ。

登録を記念し、「工女まつり」を企画した。

製糸場で働いていた工女たちには、糸とりの技術を身に付け故郷に戻ってその技術を伝習するという使命があった。しかし、生糸の輸出は思うようにはいかず、工女も余り陽を浴びる状態ではなかった。工女たちの努力や働き、その偉業をたえぬ思いで《工女まつり》の行列を実施することになった。参加者を募集し工女の袴姿で赤い襷を掛けた女性陣と、製糸場ゆかりの人物は、名札を付け紋付き袴姿の男性陣、着物姿の人々の総勢247名の大行列となった。絹の部会では、着物は勿論袴から長襦袢に帯、数本の紐類迄落ちのないように貸衣装を準備してきた。

絹の部会では、富岡製糸場の諸行事には、絹の着物に袴を付け、赤いたすきで参加し工女さんに敬意を示している。

富岡製糸場が世界遺産になっても時代とともに次なる課題が見えてきた。製糸場の普遍的な価値を後世に伝え、製糸場を核に街の活性化を願う活動はまだまだ続いてほしいし、何より、絹の町として女性たちに愛されてほしい。今までもこれからも更に。

今私は祖母や母が残した着物や羽織をリメイクしたり、2,3人でおしゃべりしながら簡単着物を考えたり、手に入れる絹の着物をさまざまにつくりかえたりしている。リメイクの中でであう絹との対

命を繋ぐのは人類の責任と原理ですよ。

毎日摂る食が本当に危ないとみんなに気付いてほしい。

食事には生物それぞれに適切な摂り方というのがありますでしょう。

野生動物の食は地球環境が悪化する今も、その動物の食体系は変えていません。

蚕は桑の葉、肉食動物は草食動物の肉、という具合にね。蚕が桑の葉以外を食べたら糸を紡がなくなり、次の世代の卵も産まなくなり、パンダもコアラも適性の中で食を維持してきてたのです。人間も同じです。生きる環境の法則に沿って生き延びてきました。

私達日本人の主食は縄文時代から「米」です。当然遺伝子レベルから米で出来上がっている身体が私達日本人なのです。それも玄米・玄米にはビタミン、ミネラル、食物繊維、フィチン酸、タンパク質、脂質、栄養の宝庫「命そのもの」。

女性の便秘、低体温、貧血の改善だけでなく、妊娠しやすい確率を上げるものなので、少子化克服には米を中心とした伝統食への改善がよいと思う。

西館 お米に対しての思いが日本人から希薄になっていくのでは。

安岡 自国の農業がいかに大切か、自国の食べ物を自給できない国はつづれます。

輸入があるからなんてのんきなことを言っているけど、こんなにあちらこちらで戦争や自然破壊が起きてい中で、飢えていく確率が大きく、野菜の自給率なんて8パーセントどころか飼料の輸出が止まれば4パーセントになつてしまつたらどうと。

元農水産省官僚、東京大学教授の鈴木宣宏先生が、食糧危機の現状を訴えています。戦後の

面である。嬉しく楽しい時間の恵みを戴いている。捨てられてしまう着物たちは、蚕・繭・織り・の中で大切に時間を生き、再生を待っている。製糸場に対する敬意は私の中で変わらなしいし、着物と触れている時間は私にとって癒しと元気の源である。

絹のすばらしさに気付き、出合つて今があり、この先せめて着物を捨てずに活用する活動は伝えていきたいと考えている。私自身も、着物で茶会に参加し、茶席のお道具や掛け軸、短冊、花や花器などに合う事で、着物文化が日本文化のすばらしさに広がっていることにどれほど豊かになっているかしのれない。

記憶を辿れば、祖母の育てていた蚕が私の原点にあるようで、懐かしく思うこの頃である。

※下仁田町「女性村ねぎぼうず」にて、6月より上原孝子さん「布リメイク教室」を開始します。

西館 怖いですね。

安岡 そうですよ。みんな肉食ばかりではだめ。肉は人間の体温以上ですから、食した後、脂は体内で塊滞し病気の巣を作る、癌です。小麦も避ける。腸によくありません。

西館 あまり農業を学んでいないで恥ずかしいのですが、大事なことはわかっていても肝心な農業をやっていたのでは食べられないという



安岡 富士子
日本創生の会主宰 (高知在住)

西館 安岡さんとは長い付き合いになりました。いつも日本を憂いて怒っている。(笑)

農水省の経緯をご存じの先生の命がけの提言だと思えます。先生は日本食糧事情は最低、やがて飢えが来ると警鐘を鳴らしています。

西館 そういえば、以前「給食が危ない」という著書をお出しになった元長野県上田市の教育長大塚貢先生は子供たちの心身の荒廃は食にあるとおっしゃっていたのですが、反対する人に襲われたことがありました。命の危険の中で、給食の変革を迫ったのです。こういう方の声を私たちは聞かなくてはいいけませんね。

安岡 そうです。国民の大方はノー天気。農業を一番大切にしなければいけないのです。

西館 潤沢にあるスーパーの野菜を見て危険を感じるとは思えないけど。

安岡 農産物関税削減したり、減反政策や土地開発などに走り、農業を弱体化してきた挙句アメリカの余剰農産物の処理場となっている現状を考えないと。

飼料にしても、農薬や除草剤など農協を通して大量に使われています。

海は海で近海は死滅状態とか、確かにすべての食の危機なのです。

米は小麦に代わり、大豆は肉になり、伝統の食としての米を作る農業をおざなりにしてきた。アメリカ食料依存症となった日本。

西館 怖いですね。

安岡 そうですよ。みんな肉食ばかりではだめ。肉は人間の体温以上ですから、食した後、脂は体内で塊滞し病気の巣を作る、癌です。小麦も避ける。腸によくありません。

西館 あまり農業を学んでいないで恥ずかしいのですが、大事なことはわかっていても肝心な農業をやっていたのでは食べられないという

声ばかり聞こえます。

安岡 そりあそうですよ。日本の教科書から歴史も農村の在り方や、農文化を消してしまっているのですから。みんなお金を出せば食は手に入ると思っています。農村の実りは過去のもの、地は住宅地になり、地域社会は消滅、文化も祭りもなくなるでしょう。

西館 というより、現実に農業から若者は離れています。

安岡 農業者という誇りが育たなくなっていますからね。貧しい、きつい、不合理などとマイナスを感じさせるすべてがそろってしまっている。伝承者もいないし、高齢化した農家には跡取りがないし、農業保護政策もない時の農業は屋根のない産業。海外では厚く保護され補助金はしっかり国や自治体が予算の中に組み込んでいます。産業なので、大きな屋根として国が守らなければ崩壊してしまうのは当然です。戦後、農業保護政策はほとんど撤廃され、農業者は裸にされ生きていけないから農業離れは進んでいきます。災害があれば自力では立ち上がれないし、耕す喜びや食した人のおいしいという声も聞こえないです。

西館 この先どうすればいいのかしら？

安岡 20世紀初頭、アメリカの石油王ロックフェラーは石油から何でもできるとして現代の薬物偏重医学の土台を作りました。食事より薬の重要性が問われる現代、決してそうではありません。私たちの身体は生命維持、継承という中で米は大部分の栄養を補える大切なものと女性たちが知らなくてはなりません。縄文時代から延々と米を食べ続けて遺伝子レベルも米で出来上がっています。

を楽しむ家づくりを目指したのです。

ところが家づくりもバブル崩壊の波を受け1999年に全てを失いました。会社も自宅も、別荘まで全てを失い、その上、夫も癌で亡くなりました。残されたのは3人の子とも達と莫大な借金でした。

教師時代に家庭訪問して気づいたことは「家の間取りは家族が育つ空間と繋がってる!!」という事です。間取りの大切さをアイデアに盛り込み、京都にある我が家を実験台としてみようと思えました。100坪の土地に2軒並んだ住まいは40坪に一人暮らしの私、60坪に長女の家族が住み、新しい二世帯住宅の暮らしを提案しました。「お母ちゃんの住まい」住育の家としての私の仕事の出発です。その家はオープンハウスとして公開しました。24年前の事です。今でも全国から見学に訪れる方がいます。

旧来の日本の家屋は

- 柱中心で壁は少なく和室で開放的
 - 木・畳・和紙・漆喰などの自然素材
 - 家具はほとんど置かず、掛け軸などは床の間にひとつだけ
 - 多目的な「間」になる素晴らしいものになる日本家屋でした。
- しかし、作る職人さんたちが減り技術は継承されず、だんだん手間をかけず簡単に早くできる施工の工法に変わっていったのです。

それに対して西洋の家は

- 壁が中心で閉鎖的
- 石・レンガなどで作られ、
- 家具や調度品が多く、絵などをたくさん飾る
- 用途が限定された部屋でドアで仕切られている

米のできる水田を大切にし、お米を食べてください。風土と身体に適したお米を愛してもらいましょう。

西館 旬のもの、土地のもの、それに丸ごといただくこと、米なら玄米、根菜は皮ごとなど守れるところから始めていきたいですね。日本の農業保護政策がほとんどなくなる中、農業を屋根のない産業にしてはけませんね。



**住環境の大切さ!!
今こそ気づいて欲しい!**

宇津崎 光代
(株)ミセリビング社長 (京都在住)

私は代々教育者だった家庭に育ちました。教師として京都で小学校教師としての道を歩み建築家だった夫と結婚、一男二女をもうけました。しかし、5年で退職、夫の経営する建設会社を手伝うことになりました。

自宅が仕事場兼家庭とあって、子育てをしながら経理、お茶汲み、工事現場、営業とひとりで何役もこなしました。ただ、始終イライラしていて、「これは住まいに原因がある!!」と気づきませんでした。

戦後はこんな西洋に習った間取りや材質の家や団地が増え、追い打ちをかけるように日本も核家族化に向かいました。

「団地やマイホーム」廊下と区切られた部屋」という個室形態が世代を分断し、核家族化を進めたことはほぼ間違いなくと思います。それは自分たちの住まいから高齢者を切り離し、プライバシーという名の元でお母ちゃんの居場所が、台所から、夫婦の寝室、家族の個室化へと移っていったのではないのでしょうか…

一見すると女性の地位も上がったように見えますが、単に孤立化が進んだだけとも言えます。この女性の孤立化こそが核家族化による最大の問題なのかもしれません。核家族化は家族をバラバラにするだけでなく、非行、家庭内暴力や校内暴力、不登校、いじめなどどこでも当たり前になった問題や、幼児・児童の虐待や無差別殺傷事件の原因の背景にもなっているように思うのは私だけでしょうか？お互いを思いやる家族間の成長もなくなりました。

これを逆に考えると、昔の日本の家の間取りや素材、家族環境に戻せば少しは防げるのかもしれない。さすがに、都市での3世代同居は難しいでしょう。しかし、住まいの環境や間取りを変えることはできると思います。

家族それぞれが、本を読んだりゲームをしたり、料理を作ったりと別々のことをしていても良いのです。それぞれの家族の姿が見えて、それぞれの居場所があり、子供も若者も老人も、年齢や世代が考えが違ってても、お互いが話し笑える癒しと和気あいあいの場こそが家庭の中心に必要なだと、それが暮らすということなのでしょう。

子どもが帰宅しても顔が見えない。使いたい場所には収納庫はない。トイレは玄関の直ぐ近くにありましたが、洗面、浴室、台所と水まわりもバラバラ、家事、洗濯場は1階なのに干し場は2階のベランダと、生活空間としての不便さは、間取りに大きな疑問があると思えました。あるとき思い切った夫に不平を口にしましたが「ど素人はだまっとけ!」と「喝」されました。53年前の建築の世界は男性社会で、「家は建てれば売れる時代」建て売りは飛ぶように新築され入居者は後を絶たないという時代でした。子育てや家事を考慮した女性目線は住宅にはありませんでした。

私は、三人の子どもたちと家族を実験台にして何とか「住みよい子育て・家事空間の間取り」の実験・検証をしたいと考えました。

現場では職人さんたちを師匠にして、建築やインテリアについて学び、海外研修にも出かけました。全国に講演にも行き、女性たちの生の声を聞きました。「主婦の代弁者になりたい」と1986年に株式会社ミセリビング(主婦の居間)を設立し、お母ちゃんの視点での独自の住まいづくりを発表していきました。

目指したのは、家族が帰りがたくなる家、お母さんが家事や子育て、介護まで楽にでき、家族が健康で暮らし



オープンハウスでもある、京都 宇津崎光代宅

中心には「お母ちゃんの居場所」があり、みんなが集まる場所にしていく。
女性の知恵、笑い、包容力、が発揮されるのではないのでしょうか。

「住育の家」とは、そのお母ちゃんの視点で家の間取りを設計したものです。「母親が使いやすい、家族が仲良くなる家」それが住育の発想なのです。

「住育の家」で実践してきたのは

- ▼素材にも拘り安全安心なユニバーサルデザインを。
 - ▼キッチンやダイニング、収納を考え、なにより家族のコミュニケーションがとれる家
 - ▼周りが自然に調和するシンプルな家
 - ▼東西南北、風の流れを考えてみんなが元気になる家
 - ▼玄関から廊下が少なく、洗面、トイレ、浴室、キッチン家事動線が楽な家
- さて、住育入門編として今日からできることは、
- ①玄関をきれいに整理して楽しい空間にする
 - ②ダイニングテーブルの特等席をお父さん・お母さんの席にする
 - ③テレビはダイニングから見えない場所に置き、居間は家族が会話できるようにする
 - ④朝一番に窓を開けてきれいな空気で家の中を掃除する
- などです。

住まいには大きな役割があります。家族が楽しくいられる場所が想像できれば嬉しいです。住育を合言葉に住環境の大切さをぜひ知ってください。



京の通り唄

丸竹夷ニ押御池（まるたけえびすにおしおいけ）
 姉三六角蛸錦（あねさんろつかくたこにしぎ）
 四綾仏高松万五条（しあんぶつたかまつまえごじょう）
 雪駄ちやらちやら魚の棚（せったちやらちやらうおんだな）
 六条三哲通り過ぎ（ろくじょうさんてつとおりすぎ）
 七条超えれば八九条（ひちじょうこえればはつくじょう）
 十条東寺でとどめさす（じゅうじょうとうじでとどめさす）
 あーがりここで一卷 うーちました あーしんど

たんすながもち

たんすながもち 花いちもんめ
 じゃんけんぼん あいこでしょ！
 たんすながもち 花いちもんめ
 勝つてうれしい 花いちもんめ
 負けてくやしい 花いちもんめ
 たんすながもち どの子がほしい
 たんすながもち あの子がほしい
 たんすながもち なになっていくの
 お馬になっておいで
 ヒヒーン パカパカ

むすんでひらいて

むすんで ひらいて
 またむすんで ひらいて
 手をうって むすんで
 その手を上に
 むすんで ひらいて
 またむすんで ひらいて
 またむすんで ひらいて
 その手を頭に（あたまに）
 おめめがふたつ
 耳がふたつ
 鼻がひとつ 口ひとつ
 おへそがひとつ
 足がふたつで指が十（と）
 お手がふたつ
 むすんで ひらいて
 手をうって むすんで
 その手を上に
 むすんで ひらいて
 くり返し くり返し

なかのほうとけ(佛)さん

なかのなーかの ほうとけさん
 なんて背が低いの
 親の日にトト(魚)食べて
 そんで背が低いの
 うしろの正面だあれ

下駄かくし

下駄かくし
 橋の下のねずみが
 どうりをくわえて チュツチュクチュ
 おとさんが呼んでも
 おかさんが呼んでも
 チュツチュク チュツチュクチュ
 チュツチュクまんじゅうをだれが喰た
 だあれも喰わない わしが喰た
 裏からまわって三軒め
 表の看板三味線屋



らかんさん(中国の故事)

せつ！ せつ！ せー
 らつかさんがそろたら
 まわそじやないか
 ヨイヤサー ヨイヤサー
 ヨイヤサー ヨイヤサー！

大阪府在住の菅田とよ子さんの収集した
 わらべうたを紹介しました。
 思い出の中の記憶です。

会員様からの投稿

「祖母が歌ってくれた歌」

高橋 和子(岩手県和賀郡西和賀在住)

オラエのジュサの木さ
 ※ジュサの木→エゴの木かと
 (訳)おらの家のじゅさの木に
 赤エトットコ止まった
 赤い小鳥が止った
 なしてクピタ曲った
 どうして首が曲ってるのか
 腹コ減って曲った
 お腹が空いて曲ったのだらう



下に降りてものコケ
 下に降りてエサでも食べたら
 足コペツペクなるからヤンダ
 足が汚れるからいやだ
 川サ行ってかけあれ
 川に行つて水かけて洗いなさいよ
 ヒビッコきれつからヤンダ
 手がヒビ切れになるからいやだ
 小麦粉粘つてくつつけろ
 小麦粉をこねてつけなさいよ
 ハエッコ止つからヤンダ
 ハエに止まられるからいやだ
 うちわ買ってあげ
 うちわを買ってあげなさいよ
 ゼンコねえあがらヤンダ
 お金がないからいやだ
 ヤンダ ヤンダ
 いやだ いやだ

こんな歌でした。

高橋和子氏は「自分たちで命を守った村」として有名な岩手県沢内村において29年間保健婦として活躍、退職した今、生命行政に命を懸けた深沢町長、加藤沢内病院長の業績と仕事を今に残すべき資料の整理を始めたそうです。昔を思い出したという唄を送ってくださいました。

『今日から明日へ』

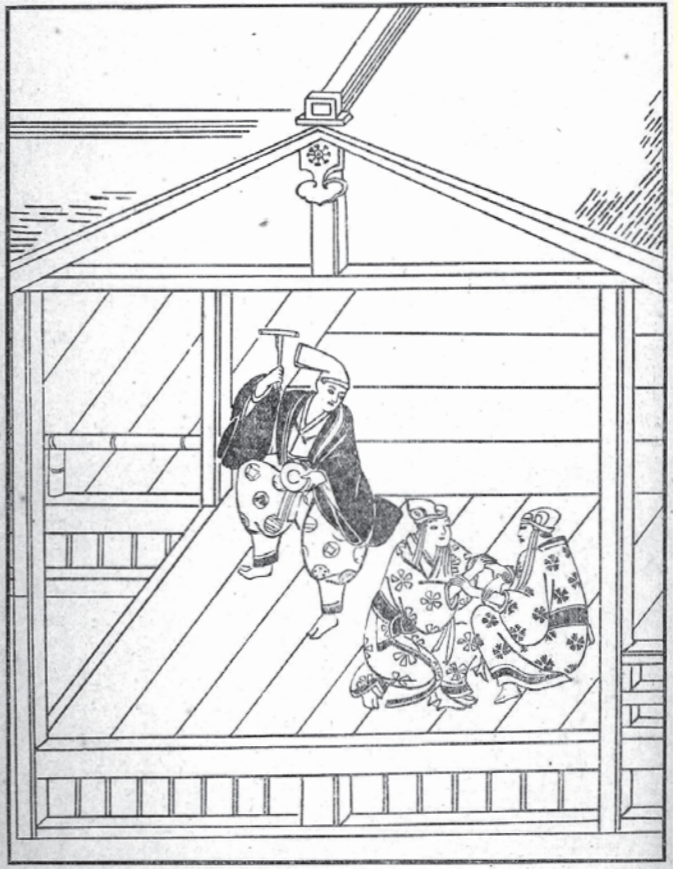
森 郁男

砲弾が国境を挟んで
 飛び交っている
 それぞれの国で同じ時間に
 新しい生命が生まれている
 それぞれの国で同じ時間に
 砲弾で生命を落とす人がいる
 誕生と死が重なり合つて
 存在している
 誰が戦争を始めたのだ
 あなたは何故銃を構えているのだ
 生命の尊厳は
 何処へ行ってしまったのだらうか？
 新しい生命が誕生する傍らで
 国境を挟んで砲弾を
 撃ち合っている
 闇が国境を消しても
 戦いは続いている
 砲弾に斃れた兵士は地の底で
 赤ちゃんの泣き声を
 聴いているだらうか？
 明日は有るのか
 ゼウスは何処だ

こりや誰が手車

わらべうた童謡詞華抄6

わらべうた研究家 尾原昭夫



狂言 手車(鈍太郎)
狂言記外篇

「あらずじ」京の鈍太郎は、訴訟のため三年ほど西国へ出かけていたが、それが片付いたので久しぶりに都へ帰り着く。ところが上京と下京に妻と妾がおり、ともに近所の若者がからかうと受けとめ家に入れてくれないため、一旦は仏道修行に入ることとし妻たちを困らせる。二人のすすめでそれは思いとどまり、結局鈍太郎が指図して二人のへ手車に乗って宿へと帰る。

手車というのは図にもあるように、二人が両腕を井桁に組み合わせ、そこに人に乗せて運ぶもので、古くからの子どもの遊びのひとつであり、そのとき唱える囃子言葉も広く永く現代に至るまで伝承されてきたのである。

(シテ) 迎の事にそなた達は輦をかいて、はやし物で宿へ連れていて呉れさしめ。(下京) 心得まして御さるが、何といふてはやしますぞ。(シテ) 惣而某は人に殿文字を付て呼れた事が無いに依て、身共が、是は誰がてぐるま(是は誰がてぐるま)と囃う程に、わごりよ達は、どん太郎殿の輦(どん太郎殿のぐるま)といふて、殿文字を付て囃いてくれさしめ。(下京) 心得ました。さあ、是へ寄て輦を組せられい。(上京) 心得ました。(下京) 急で囃させられい。

(シテ) 心得た。
(シテ、囃子物) 是は誰がてぐるま、く(これは誰がてぐるま)。
(上京、囃子物) どん太郎殿の手車、く(どん太郎殿の手車)。

大蔵虎寛本『能狂言』(寛政四年写)より

狂言「鈍太郎」

前回到続き、わらべうたと深いつながりのある狂言として「鈍太郎」(手車)を挙げておきたい。

元禄以後の手車の伝承

伝承童謡の(世界最古の記録)と目される鳥取藩、野間義学の「筆のかす」(江戸中期、享保十七年頃成)の写本「古今童謡」にも手車の記録があるので紹介する。(尾原昭夫・大嶋陽一・酒井董美共編『古今童謡(こきんどうよう)を読む』今井出版刊参照)

地頭殿手車



手車(古今童謡)



(参考) 手車 英一蝶画
江戸中期

この通りに、二人して手を組み、(図)両方へ足をまたげさせて、一人のせ行く。
この○付きのあいだに、乗る人の足さ(下)ぐるなり。乗る人は兩人の肩に手をかけて、足をこの所に入れ、乗りありくなり。ありきく云ふ詞。
これはたれが手車、地頭殿手車。
この通りくり返しく云ふ。

元々「手車」というのは、輿の形の屋形に車をつけ、人が前後の轆を引いて動かす車をさし、よほど高貴な者でなければ乗ることが許されなかったと思われる。その関心が「乗り手は誰か」に集中してこの囃子言葉を生んだ。それがいつしか子どもの遊びに取り入れられ、ここにも権威あるものとして「地頭」が登場し、この遊びの時代の古さを感じさせる。原本の図に加え、英一蝶の絵を参考として掲げるのでご覧いただきたい。

次は江戸後期、江戸における記録。
ふたりの手をあつにくみて、このうへ子どもをのせ、ふたりのむねのまへ、あしをさげさせ、かたへつかまらせて、
「おちよさんの てんぐるま(おちよさんのてんぐるま)。
とうたひながらあゆむのなり。

万亭応賀著『幼稚遊昔雜形』(おきなあそびむかしひながた天保十五年刊)

なお近代現代における伝承わらべうたの数例を挙げておく。

○お手車お手車、安くするから乗らさんせ。(宮城)

○てんてんてんぐるまに、だれだれ乗しようや、二階座敷のおしよさん乗しよう。(石川)

○てんてんてんぐるま、だれか乗り手はないか。(山口)

○てんてんてん車、おしよう様の鼻車。(長崎)

があいたにのってんか。(三重)○天神さんのかごと、お姫さんのかごと、どっちが重い、お姫さんが重い、なんで重いゆうたら、ひょうたんの先に、ヤイトをすえて、あつやかなしや、かなほとけエけ、深い川へはめよか、浅い川へはめよか、とてもはめよなら、深い川へどんぶりこ。(大阪)

「日本のわらべうた 室内遊戯歌編」より

淀の川瀬の水車 小歌からわらべうたへ

加えて狂言「うつぼざる」(靱猿)も挙げておきたい。ある大名が弓矢を持って遊山に出かける。途中猿引に出会い、その猿の毛皮を鞆(矢を入れる筒形の籠)用にと所望する。断つても大名が聞かぬため仕方なく杖で打とうとするが何も知らぬ猿は教わったとおりその打杖を取り舟を漕ぐ芸をする。さすがの大名も哀れに感じ許す。そこで猿引は御礼として猿にいろいろめでたい舞を演じさせる。その小歌の一つが「淀の川瀬」である。

淀の川瀬の水車。誰を待(つ)やらくるくと、く(くるくると)。

大蔵虎寛本『能狂言』(寛政四年写)より

この歌は室町時代の小歌の集成『閑吟集』(永正十五年成)にも次のように載る。

宇治の川瀬の水車 何とうき世をめぐらう

〔現代語訳〕 宇治の川瀬の水車は、この憂き世を、なんだと思つてあのように、毎日くるくると廻っているのだろうか。

真鍋昌弘校注『閑吟集』岩波文庫より

宇治川と淀川は同じ琵琶湖を水源とし上下でつながる。真鍋



淀の川瀬 鮮斎永濯画

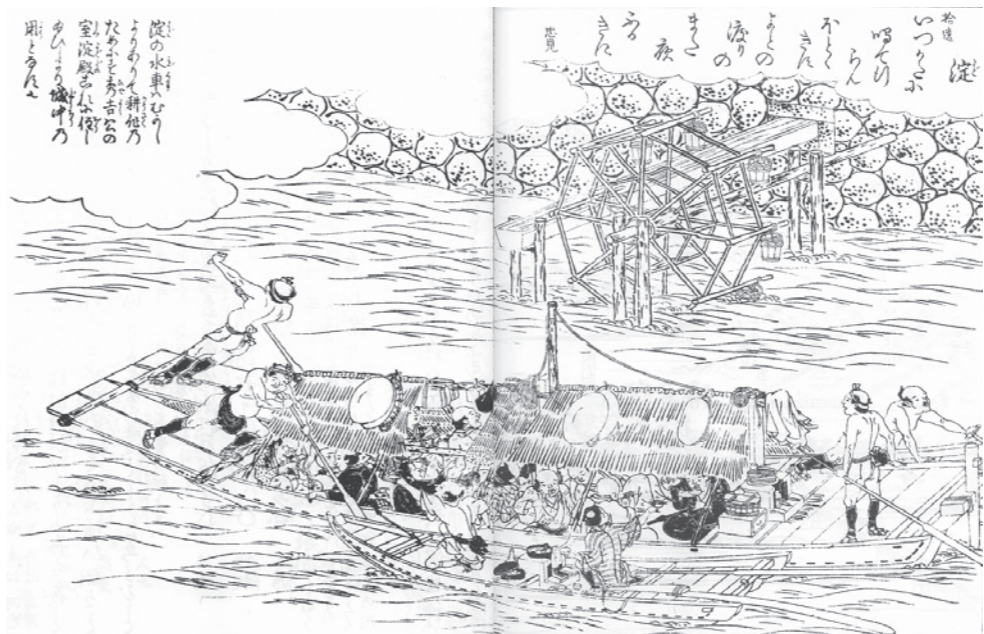
吾妻余波(明治)

子どもたちは水車の回転をまねて、手をつないで輪となり廻る遊びにこの歌をうたい、やがてその一か所をくぐる遊びを工夫し、さらに図のように輪でなく一列になつてくぐる遊びに展開していく。その遊戯歌「淀の川瀬」の伝承は、ほぼ全国的に各地に分布している。

淀の川瀬の 花水車 梅と桜と 合わせてみれば
梅のながめは ピンコシャンのシャン

(兵庫)

先生の解説によると、「はやく『梁塵秘抄』に「平等院なる水車」とあり、『平治物語』にも「伏見ノ里に鳴鶴 聞ニ付テモ悲シキニ 宇治ノ河瀬ノ水車 何ト浮世ニ廻ルラン」とあって、近世に入り、文化の中心が宇治から淀に移り行くにつれ、「淀の川瀬の水車」の小歌として多様な場で人々に親しまれてゆく。」それは女歌舞伎踊歌、白摺歌、白挽歌、さらに子どもの輪遊び歌などにおよぶと。



淀の水車 都名所図会

次にいくつかの類歌を例示しておく。

- 淀の川瀬の水車、どんどと落ちるは滝の水、ぼちゃぼちゃ落ちるはお茶の水、子供や子供やへそかくせ、今に雷鳴つてくる、ゴロゴロゴロゴロ。(東京)
- 淀の川瀬の水車、だれがくるやら、くるくると。「表門返つてこい」「裏門返つてこい」(岐阜Ⅱ郡上郡八幡町)
- 淀の川瀬の水車、明けても暮れても水が出る、でんでん車、でん車、出ななまぶちわる。(京都)
- 淀の川瀬の水車、あけてお通りやれ、どんどとお通りや。(山口Ⅱ萩市)
- 淀の川瀬の水車、どんどと落ちる滝の水、子供や子供、今に夕立降つてくる、ドドドドド。(子供二組が手をつないで十字形に並び、回転する遊び)(福岡Ⅱ筑後地方)
- 淀の川瀬の大水車、どんどんしゃんしゃん、どんしゃんしゃん、雨もざらざら、小豆もざらざら、三味線こきわつてちよいかごんだ。(佐賀Ⅱ三養基郡三根町)

「日本のわらべうた 戸外遊戯歌編」より

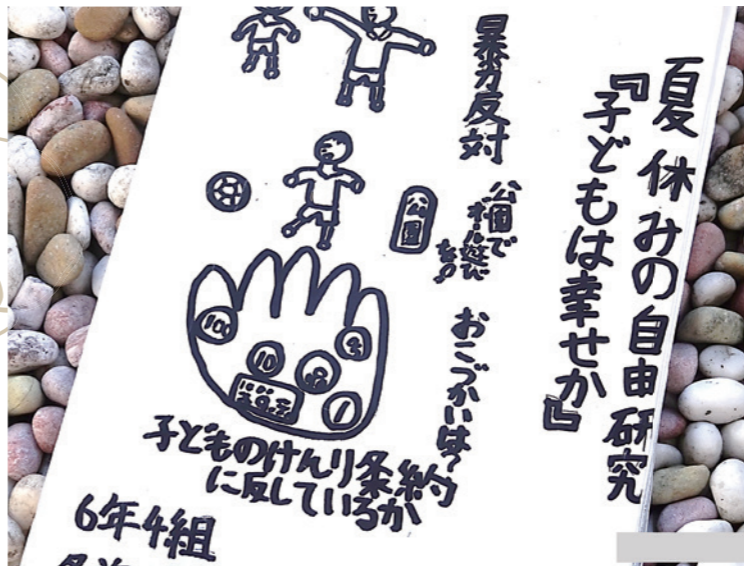
△出典▽

- 笹野堅校訂 大蔵虎寛本『能狂言』(寛政四年写)一九四二岩波書店(岩波文庫)
- 鳥取藩、野間義学「筆のかす」(江戸中期、享保十七年頃成)写本「古今童謡」。尾原昭夫・大嶋陽一・酒井董美共編『古今童謡』を讀む(二〇一六今井出版)
- 真鍋昌弘校注『閑吟集』(永正十五年成)二〇二三岩波書店(岩波文庫)
- 尾原昭夫編著『日本のわらべうた室内遊戯歌編』『日本のわらべうた戸外遊戯歌編』二〇〇九文元社

子どもの意見

子どもの虹情報研修センター 川崎 二三彦

夏休みの自由研究
『子どもは幸せか』



夏休みの自由研究

もうずいぶん前のことになるが、当時小学校6年生だった息子が、「子どもは幸せか」と題して夏休みの自由研究を行った。「ぼくがおかしいと思うこと」を書き出し、それが子どもの権利条約に反していないかどうかを調べるといふ趣向だ。「研究」なので、疑問に思ったことを、関係する大人に問いかけ、回答をまとめ、感想を書いたと提出した。

では、どんな内容が書かれていたのか。「作文を書く宿題が出ると、お母さんがこっそり読む。ぼくはそれがいやだった。これは子どもの権利条約第16条*1に反していると思う」「ピアノのけいこに行かされていること。最初は、あめがもらえるとわかって行ったけど、6年になるとあめなんかどうでもいい。ピアノは十分したからやめさせてほしい。これは権利条約第12条*2に反していると思う」

「先生だけ、お菓子を学校に持ってきていること。これは子どもの権利条約第2条*3に反している可能性があると思う」

「職員室にだけクーラーが取り付けられていること。これは子どもの権利条約の第2条と3条*4に反していると思われる」

「電車に乗るとき、中学生なのに大人料金を払わなければならないこと。これは、子どもの権利条約第1条*5に反していると思う」

「公園でボール遊びをしてはいけないこと。ほとんどの公園は広いのにボール遊びができる。これは権利条約第3条に反していると思う」その他、さまざまな疑問が書き込まれていたが、回答を求められた大人たちはたじたじだった。我が家では、母親が「小学生の間は作文を讀ませてください」と改めて頼んだり、ピアノ教室を卒業するなどの変化(成果?)があった。学校では、居合わせた先生たちが「お菓子は」夜まで仕事をすることもあるし「だとか」「教室にも絶対クーラーを入れるべきだと思う」「でも予算が……」等々の意見がそのまま回答となった。

- *1 第16条 子どもにだってプライバシーがある。
- *2 第12条 意見を聴いてもらえる権利がある。
- *3 第2条 差別の禁止。
- *4 第3条 子ども最善の利益の考慮。
- *5 第1条 この条約の適用上、児童とは、18歳未満のすべての者をいう。

立場が異なる大人と子ども

さて、△電車料金▽及び△公園でのボール遊び▽について考えてみたい。仕事中にいきなり

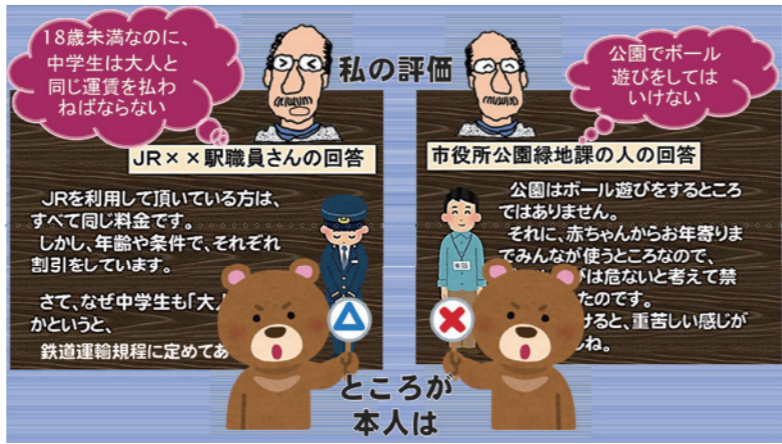
やって来た小学生に対して、前者はJRの職員が、後者は市役所の職員が対応したのだが、やや困惑しながらも真剣に聴いており、日本には子どもを大切にす風土、文化がまだまだあるのだと、希望を感じたものである。

それはさておき、JRの職員はいろいろ調べた末、最終的に「鉄道運輸規程に定められています」と回答した。一方、市役所の職員は、「公園はボール遊びをするところではありません。それに、赤ちゃんからお年寄りまでみんなが使うところなので、ボール遊びは危険だと考えて禁止と決まったのです」と説明した。

どうだろう。市役所の職員の説明は懇切丁寧で理にかなっているのに比べ、JRの職員は、結論が「規則だから」という内容にとどまっております。私はやや不満だった。

ところが、子どもの感想は逆だ。というのも、電車の運賃のことは、身体も大人並みに成長しつつあり、わからないでもないらしいのだが、公園の件では、「じゃあボール遊びはどこですればいいのかわからない」という要求は満たされな

ままじゃないか」というのである。なるほどと思った。そこには大人と子どもの立場の違いが象徴的に現れており、私たちは、大



人の論理で判断するのではなく、当事者の子どもからしっかり意見を聴かねばならないと、痛感させられたのであった。

社会的養護で暮らす子どもたち

翻って、虐待を受けるなどして児童養護施設や里親で生活する子どもたちの意見は、十分聞き届けられているだろうか。ある調査研究で、施設や里親宅に在籍する子どもたち、また、それらを体験して成人になった人たちにインタビューしたところ、こんな声があったという。

「施設に行くときに意見を聞かれたか覚えていない」「自分が施設にいる理由はなんとなく分かってはいるが、なぜこの施設に来ることになったのかはわからない」

「施設に対して『もっとこうしてほしい』という意見は言えるけれど、改善されない」

「ベッドの寝心地が悪いけれど、言っても替えてくれないから言わない」

「話しても聞いてくれないし、言い返される」もとの家族から離れ、施設や里親で生活しなければならなくなった子どもたちは、誰しも複雑な事情を抱えており、支援する側はその点に

も配慮して彼らの願いや希望にしっかりと耳を傾け、可能な限り実現するよう努力しなければならぬ。ところが、今紹介したように、必ずしも子どもの声が届いているとは言えない現状がある。

意見表明等支援事業

こうした実情もふまえ、2022年の児童福祉法改正では、一時保護や施設への入所、さらには里親委託を決める際、また、これらの措置を解除する際、児童相談所は、あらかじめ子どもの意見を聴くよう義務づけられた。合わせて、児童相談所や施設の職員、里親などから独立して子どもの意見を聴く「意見表明等支援員」を新たに置いて、こどもの意見を聴いたり、意見表明自体を支援する事業も法律で位置づけられた。

両者は、こどもの意見を聴く点に於いては同じだ。ただし、子どもの最善の利益を考慮し、場合によってはこどもの意見とは異なる援助方針を決定することもあるのが児童相談所だ。したがって、意見表明等支援員は、純粋に子どもの意見、意向や希望を聞き、必要に応じて児童相談所等に伝えることになる。自身の行く末を決める役割を担う児童相談所の職員には話しにくいことであっても、第三者の意見表明等支援員には率直に話せることもある。

実は、このような制度が、本年4月、いよいよ始まり、本格的に動き始めた。両者が補い合っており、子どもの意見、子どもの気持ちを受けとめ、よりよい支援につながることを期待したい。

第8回 「金子みすゞの子守唄」(山口県)

今年(二〇二四年)二月中旬、一泊二日で山口県下関市と長門市へ金子みすゞの「聖地巡礼」に出かけました。

一日目のお昼過ぎ、本州最西端の下関駅に降り立ちました。市内バスで約一〇分、早春の陽光が眩しい唐戸バス停に到着です。下関観光ガイドブックに載っていた「みすゞ詩の小径」のモデルコースに沿って一時間余りかけて歩きました。「旧秋田商会ビル」― 上英文英堂本店跡 ― 金子みすゞ顕彰碑(寿公園) ― 黒川写真館跡― 弁財天橋 ― 商品館(上英文英堂支店) ― 詩碑「日の光」― 詩碑「夏越まつり」(亀山八幡宮) ― 三好写真館跡。それぞれの場所に詩碑が設置してあり、みすゞの世界に想いを馳せながらゆつくりと楽しむことができました。



この町でみすゞは、一九二三年の二〇歳の時から二六歳に自死するまでの七年間、上英文英堂の書店員として働き、結婚し、娘のふさえ(ふうちゃん)を生み育てながら、五〇〇編を超える童謡作品を創作しました。その悲劇的な最期から、私にとつての心象風景としての下関の町は仄暗く陰鬱なものでしたが、実際にこの地に立ってみて一変しました。英国領事館もある国際都市として栄えたこの港町で、みすゞは白い日差しの中で坂道を軽やかに駆け上がり、亀山八幡宮の祭囃子を聴きながら本を読んだり、ふうちゃんにわらべうたを歌ったりしたに違いありません。『金子みすゞ 南京玉 娘ふさえ・三歳の言葉の記録』(JULA 二〇〇三年)には、「ヒトメ、フタメ、ミヤカシ、ヨメゴ」の羽根突き唄が書きとめられています。憂いの中にもそんな陽性の輝きを併せ持つみ

すゞ童謡に魅せられて、下関市民の皆さんは「詩の小径」を整備したのでしょうか。

翌日、一〇時半頃に長門市の仙崎駅前バスで到着しました。この日も快晴でした。駅から北へと伸びる「みすゞ通り」を歩いて約二分、復元された書店「金子文英堂」の棟を含む、金子みすゞ記念館が右手に見えてきました。

記念館での見学をひと通り終り、団体客が立ち去ったのを見計らって、受付にいた館員の方に声をかけました。今回の「巡礼」の最大の眼目です。「赤い鳥」一九二五年一月号通信欄の「地方童謡(三十六)」北原白秋選に、「姉さん 田をつくれ、一反つくれれば二千石、二千石の大かめを、めいじにたいて富士の山、(後略)」という三十連にわたる長い歌詞の「手まり唄」が掲載されており、末尾に「長門仙崎地方―金子みすゞ氏報」と記されています。楽譜は付いていません。この記事のコピーを示して、「この唄についてご存知ありませんか。もし歌える方が近くにおられそうでしたらご紹介いただけませんか?」と質問してみました。すると、この女性館員Fさんはコピーを手仕事で戻り、しばらくしてから『長門市史 民俗編』(一九七九年)を持ってきて、次のような歌詞を紹介した箇所を見せてくれました。「まりつきうた 五 殿台地方」とあります。



坊さん 坊さん
お前の屋敷は
立派な屋敷

梅の木 三本
サクラギ 三本
合わせて 六本
カラ カラ カランダ
鳥が 一羽で 渡した
ホーイ 渡した

注 中間照枝さん 提供

先ほどの「赤い鳥」掲載版の最後は次の通りです。「……坊さん坊さん、おまへの屋敷、りつばな屋敷、梅の木三本、さくろが三本、合せて六本、から から梅、からすが一羽で、わアたした、わアたした」。明らかに二つは類歌です。『長門市史』版には楽譜が付いていました。このメロディーを口ずさみながら、みすゞはまりつきをしたり、お手玉をしたりしていたのでしょうか。

Fさんによれば、母親のミチは浄瑠璃を語るのが得意だったといえます。みすゞ(本名テル)には女きようだいはおらず、近所の女の子たちと一緒に遊ぶこともあまりなかったようで、この唄はミチから聞いて覚えたのではないのでしょうか。遊び唄としてだけでなく、子守唄として聞いていた可能性も考えられます。また、娘のふうちゃんにも歌ってあげていたかもしれません。

『長門市史』版と同じ原曲と思われる版が、内田伸・河北邦子『日本わらべ歌全集一九下 山口のわらべ歌』(柳原書店一九九二年)に「坊さん坊さん」「一」(手まり歌)として掲載されています。「坊さん 坊さん/お前の屋敷は 立派な屋敷/梅の木三本 桜木三本/合わせて六本/カラカラカランダ/鳥が一羽で渡した/ホイ渡した」(長門市正明市)。伝承者は中間照枝(明治二八年生れ)、採譜者は『長門市史』版と同じ安藤寿和子です。楽譜を比べてみると若干の違いがあり



ますが、『山口のわらべ歌』に載せる際、本全体の統一を図るために編集者が修正したものとも考えられます。伝承者が明治二八年生れということは、明治中頃から大正期にかけて、この地方でよく歌われていたということでしょう。

自分自身は知らないという館員Fさんは、地元の伝承文化に詳しい男性Sさんに電話して記念館まで呼んでくれました。間もなく来られたSさんは、この歌詞を知らないということで、「手まり唄は女性の方がよく歌っていたはずだから」と私を連れて館を出て、隣の八百屋さんに入り、店番をしていたご高齢の女性や買い物客の地元の女性に尋ねてくれました。あいにくこの方がたもご存知ありませんでしたが、「せっかくなから遠くからお尋ねに来られたのだから」といって、もし情報が入ったら電話するからと約束してくれました。皆さんの心尽くしのおもてなしに胸が熱くなりました。

その後、みすゞ通りをさらに北上し、遍照寺にあるみすゞの墓前を手を合わせました。墓石の側面には、「上山ミチ娘 昭和五年三月十日 金子テル子」「平成元年四月十一日 上山正祐」「令和四年九月二十九日 テル娘 上村ふさえ」の文字が刻まれています。九七歳まで長寿を全うしたふうちゃんは現在、母みすゞ(テル)や叔父正祐と一緒にこの地で眠っています。

「坊さん坊さん お前の屋敷は 立派な屋敷〜」



連載

帯津良一

人生の幸せは米寿にあり



中国籍の古い友人の女性からの電話です。
「久しぶりに、一杯やりませんか」

と来たものです。私のクリニクの近くの割烹料理店を指定してきましたので、いやも応もありません。その場ですぐに日時をきめました。

彼女との出会いは、私が中西医結合のがん治療を旗印にした病院を郷里の川越に開いて間もなくですから40年近く前に遡ります。初めは閑古鳥が鳴いていた院内の気功道場がやっと賑わいを見せはじめた頃ですから1980年代半ば頃でしょうか。日本の知人とのご縁で日本に留学し、川越市に居を構えていたのです。

その彼女が、看護師としてのアルバイトを求めて私の病院にやって来ました。しかし、日本の国家資格が無いので、それはできないと申し上げたところ、気功もできると言います。それならばということ、道場に入って一差舞っていただいたところ、その動きが只者ではありません。即座にわが気功道場の一翼を担っていただくことにしました。

彼女が得意とする功法は
「宮廷二十式呼吸健康法」

と謂い、清朝の王室に伝えられた功法であると言います。その柔らかい舞うような動きはきわめて女性的で、看護師さんたちの人気を呼び、わが道場の基本功法の一つとして、あつという間に定着したものでした。

だから、1992年4月にNHKが初めて気功を番組として取り上げた、教育テレビの「気功専科」を私が担当することになったときも、「宮廷二十式呼吸健康法」を主要功法の一つとして、彼女に出演してもらいました。この番組は、それまでわが国ではどちらかというと異端視されていた気功がついに市民権を得たとして評判になったものでしたので、彼女の果たした役割も決して小さいものではなかったでしょう。

その後、彼女は長年にわたって、わが道場のために尽くしたあと、いまではJR四谷駅の近くに自分の道場を開いて、大いに羽搏いています。その彼女がピンク色の上下に身を固め、約束の

人生七十古来稀なり

と。好い一行です。ところが、その前の一行である

酒債は尋常行く処に有り(酒の借金は普段行くところ、どこにもあるものなのだ)

により共感したものですから、まだ、この世は真つ盛りというところなのではないでしょうか。次いで、77歳の喜寿の祝については、絹の帽子をかぶり、絹製のちゃんちゃんこを着た私が、病院とクリニクの女性職員8人に囲まれた記念写真が自室の本棚の片隅から私を眺めているのですが、そのお祝の情景については何も覚えていないから不思議です。折角、喜寿を迎えても、老いや死について特別の思いが無かったということなのではないでしょうか。

人生の幸せは後半にあり

しかし、米寿を迎えた今回は違います。まさにを地で行っている感じです。仕事も晩酌も充実の一途を辿っています。朝8時より少し前に私の外来診察室に入ります。その日に診察が予定されている患者さんのカルテが山積みされていて、その上に患者さんの名簿が載せてあります。まずはこの名簿を見ます。溢れるほどの名前を見ると、うれしさが込み上げて来て、

よし！頑張るぞ！

と闘志が湧いて来ます。わが内なる自然治癒力が高まって来ます。

お酒もずっとおいしくなって来ました。どの一杯も比較にならないくらいおいしいのです。どの一杯も粗末にはできません。2時間足らずの晩酌の間、内なる生命場が煮え滾って来るのが

わかります。これも一重に20年来の脳梗塞を防ぐサプリメントと数年来の下半身の衰えを防ぐための牛肉と昆布の出し汁のおかげと感謝しています。

そして何よりも好いのは死後の世界に対する親しみが増したことです。楊時名先生は言うまでもなく山田幸子さんや奥富の哲ちゃんに会いたくて会いたくて仕方がなくなってきたものです。だからといって無闇矢鱈に行けばよいというものではありません。この世に留まったら留まったで、やる事はいくらでもあるのです。ホリステック医学の追求もナイスエイジングの普及も大事なら、地球の自然治癒力の回復も眉の急です。

だから、日々この世での日常を楽しみながらお呼びがかかったら、勇躍出かけて行けばいいのです。また、90歳の卒寿も楽しみに近づいてきました。

帯津良一 プロフィール

1936年、埼玉県川越市に生まれる。東京大学医学部卒業、医学博士。東大医学部第三外科に入局し、その後都立駒込病院外科医長を経て1982年、川越市に帯津三敬病院を設立。2004年には、池袋に統合医学の拠点、帯津三敬塾クリニックを開院。
日本ホリスティック医学協会名誉会長。著書に「代替療法はなぜ効くのか?」「健康問答」など。その数は100冊を超える。

佐藤 齊が87歳

であり、お三人を超えたとなると、私が養生に對して一家言を示しても、お許しいただけることでしょうか。

さらに最近の先輩の享年を見ると 京セラの稲盛和夫さんが90歳

劇作家の山田太二さんが89歳

芥川賞作家の石原慎太郎さんが88歳

世界的指揮者の小澤征爾さんが88歳

ということ、医大なる先人たちが身近かに感じられて来るから不思議です。
そして、私自身のこれまでを振り返ってみますと、老化と死に対する思いが微妙に変わって来ているのが興味深いところです。まずは70歳の誕生日を前にして、今は亡き初代総師長の山田幸子さんが、
「先生のお誕生日のお祝いをしたいので空いている日を教えてください」
と。それまで誕生日のお祝いなんて経験したことがなかったのです。
「えっ！」
と目を白黒させていると、
「だって、古稀ではないですか」
と。

人生の幸せは後半にあり

そうか、俺もいよいよ老人の仲間入りかとも一抹の寂しさを感じたものでした。すでに貝原益軒の
を金科玉条にしているのですから、現実とは不可解なものです。そして出典である杜甫の詩「典江」を開いてみました。ありました。

「ねんね守の歌」

(中国地方の子守歌) 岡山県 千藤幸蔵採譜

音楽文化研究家 長田暁二

ねんねこ さつしやりませ
寝た子の可愛さ 起きて泣く子の
ネンコロロン 面憎くさ
ネンコロロン ネンコロロン

ねんね ころいちゃ
今日は二十五日さ
明日は此の子の 宮詣り

宮へ 詣った時や
何と云うて拝むさ
一生此の子が達者の様に

帯は 急がぬ
羽織は急ぐさ
明日は此の子の 宮参り

宮へ詣る時や
赤い着物着てさ
乳母に抱かせて 宮詣り

橋の下には
鴉が居るさ
鴉捕りたや 儂や怖い

面の憎い子は
俎に乗せてさ
青菜切るよに じよぎじよぎと

日本の大作曲家の山田耕筰が、昭和3(1928)年4月に芸術歌曲として発表しました「中国地方の子守歌」の元歌です。この歌は岡山県西南部の小田郡矢掛町から井原市高屋町を結ぶ広島県に近い旧山陽道周辺に、江戸時代から伝わる非常に素朴で典型的な「眠らせ歌」の「ねんね守の歌」で、この歌がモデルであったことは、民謡関係者の間でも余り知られていません。

田畑仕事、炊事、洗濯、育児と終日休まる時間の無かった農村の若い母親は、綿の様に疲れ切った身体を横たえ、赤ん坊を寝かせて、一刻も早く、寝付いて呉れるように……と、ストレー

トな心情が起きて泣く子の面憎さ……に痛い程読み取れます。面の憎い子は、俎に乗せてさ……の歌詞もありますが、何とも物騒です。でも、継母が子供をいびる陰湿な風習ではない証拠に、メロディの方は真に大らかな旋律です。

歌詞の中にあります「さつしやりませ」は「して下さいね」、「まめ」は「達者」という備中・備後地方の方言です。「宮詣り」は井原市の通称天王さまへの参詣で、神仏習合時代の名残りです。「中国地方の子守歌」が戦後の中学校の音楽教科書に採用されて普及されたこともあって、地元の大人ですら、山田耕筰の格調高いメロディと元歌がごちゃごちゃになって仕舞い、抑揚の付いた鄙びた歌をちゃんと唄える人はほとんどいなくなりました。これを耳にした民謡歌手の原田直之は元歌の復元を謀り、音として後世に残し度いと考え、地元の古老や文化関係者と連絡をとりました。彼は和楽器の伴奏を付けて昭和55(1980)年6月ポリドールにレコーディングしました。

昭和56(1981)年には流行歌手の小野由紀子が徳間ジャパンからカセットを発売しました。岡山県出身の千藤幸蔵も伴奏を付け三味線譜を出版しました。昭和58(1983)年3月、ロサンゼルスで活躍しています佐藤松豊もレコーディングし、ポリドールより発売、LP「佐藤松豊民謡集」の中に収録しています。力みの無い素朴の中に我が子の幸せな成長を祈ります母親の溢れる様な愛情がしみじみ伝わってきて、情感の籠った節回しが聴かされる為、最近の歌謡界では取り上げられて唄われることが多くなりました。



連載

直島便り ②5

石にぬくもりを感じて



南無庵 庵主 山根 光恵
山口県長門市出身
浄土真宗本願寺派 布教使

寒い朝、北側の窓のカーテンを開けると、この頃は赤い山茶花が満開だ。その山茶花の花と葉っぱのあちこちが、なぜかゆらゆらと揺れている。風もないのにどうして?と思うとよくよく目を凝らすと、枝の間に小鳥のしっぽのようなものが見える。どうやらメジロが、朝の早いうちに山茶花の蜜を吸いに来て、そのために枝が揺れていたらしい。

そうか、メジロの朝食時間だったのかと気付いて、私も急いで服を着替えた。そう、今日は岡山県まで、お地蔵さんをお願いに行く日だったのだ。

以前にも何度かこの「ららばい通信」で書かせてもらったが、私が直島に移住してきて一番に気付いたのは、昔から島の中にたくさん祀られていた路傍の御地蔵さんたちが、とても薄汚れ、みすぼらしくなっていたことだ。近年、お地蔵さんのお世話をする人が少なくなってしまったのだろう。しかし、観光客も増えたので、お地蔵さんもたくさんの人たちに見られるはず。これらのお地蔵さんたちをきれいにしたら、島全体が美しくなるし、見る人々の心地も良くなるではなからうか。そんなことを思ったのがきっかけで、私はお地蔵さんの涎掛けを作って掛け替える活動を始めた。

直島は、島が三つの地区に分けられていて、墓地も

それぞれに分けてある。そして各墓地の入口に地蔵堂が建ち、中に六地蔵が祀られている。一、三年前のある日のこと、本村という地区の六地蔵が三体なくなつて、「探したら、首を切られて山の中に捨てられていた」と、いつも涎掛けの掛け替えを手伝ってくれている仲間の一人が報告してくれた。

単なるいたずらとしてやられたのか、理由があつたことなのか、見当もつかない。それにしてもどうしたものか……と思索に暮れている間に、時が過ぎてしまった。それがごく最近、ひよんなご縁ができた万成石(まんなりいし)を扱う石材屋さんが「職人さんたちが練習で作つたお地蔵さんがあるので、良かったら差し上げますよ」と提案してくれた。「本当ですか? いいのですか?」とびっくりした。

なぜなら、万成石とは墓石としたら庵治石などと並ぶ最上級の石であり、別名「桜御影(さくらみかげ)」ともいわれ、桜の花びらが散っているようなきれいなピンク色で、とても美しい石なのだ。石原裕次郎や、世界的な彫刻家のイサム・ノグチの墓石に使われていることで有名で、そのイサム・ノグチは生前、素材として万成石を愛用していたらしい。また、東京・銀座にある「銀座和光」の外壁などにも使われている。

万成石は、岡山駅より西へ約五キロ離れた矢坂山というところから採掘されていて、岡山県の石として認定されている純国産の石である。それまで万成石とい



万成石のお地蔵さん

う石があることなんて知らず過ごしてきたのだが、何とこの直島にも深い関わりがあった。ベネッセが手掛けるアート施設で李禹煥美術館という有名な美術館があるが、その李禹煥氏の作品にも万成石が多く使われているらしい。

さて、お地蔵さんを石材屋さんからいただいたから、改めてその姿を眺めてみた。なるほど職人さんたちが「練習」で彫つたからこそだろうが、みんなとても個性的な顔をしている。よく見ると、誰かに似ているようでとても親しみが持てる。

地蔵堂に運ぶ日までは、私の住む南無庵にお泊りいただくとうと、二階の阿弥陀様をまつた祭壇の前まで運んだが、さすがに私一人で運ぶにはとても重かった。翌日には、阿弥陀様の前で一人ずつお地蔵さんを抱っこして写真を撮った。抱っこしたお地蔵さんは、親に抱かれて安心し切つて眠っている赤ちゃんのようで、石のはずなのにとても温かく感じた。

地蔵堂にお地蔵さんを納めた後、新しいお地蔵さんが来たことを聞きつけて「ご苦労様、みんな食べてね」と大きな鍋いっぱいカレーを作ってくださいました。さっそく、みんな楽しんでくれた。

もう少しすると寒さも収まり、桜のつぼみも膨らむことだろう。満願成就する縁起の良い石ともいわれている万成石のお地蔵さんとともに大人も子どもも、笑顔と笑い声のたえない国にしていきたいものである。

合掌

子供のSOSの相談窓口

悩みの内容などに合わせた相談窓口を無料で紹介。

24時間子供SOSダイヤル(通話料無料)
0120-0-78310

BONDプロジェクト

10代20代の生きづらさを抱える女の子のための
電話やLINE相談による支援を実施。

080-9501-5220
(月・土 18:00~21:00)
070-6648-8318
(水・日 14:00~19:00)

HP <https://bondproject.jp/>



←10代20代の女の子専用
LINE相談はこちら

東京メンタルメンタルヘルス・スクエア

カウンセリング(オンライン・対面・電話)や、
無料の電話相談、SNS相談を実施。(電話相談 1回20分 無料)
年齢・性別問わずどなたでも相談できます。

050-5491-9824
(実施日時はHPの「ほっとラインカレンダー」でご確認ください。)

HP <https://www.npo-tms.or.jp/>

自殺対策支援センターライフリンク

「死にたい」「消えたい」「生きることに疲れた」
「生きることが限界だ」と感じている人のための、
無料かつ秘密厳守の電話相談を実施。

0120-061-338
(毎日24時間対応・木曜日のみ6:00~24:00まで)

HP <https://lifelink.or.jp/>



←LINE相談はこちら

ひとりで悩まず相談して!!

困った時にはまず心を開いて
どこかにコンタクトを
とってみて下さい。

チャイルドライン支援センター

18歳までの子供のための
無料相談窓口による支援を実施。

0120-99-7777
(毎日16:00~21:00 無休)

HP <https://childline.or.jp/>

こどもの人権110番

学校でのいじめや家の人にいやなことをされるなど、親や先生
には話しにくいけど、どうしていいかわからない、誰も気づい
てくれない…。このような悩みを相談による支援を実施。
※こどもに関する悩みをお持ちの大人の方々も利用可能です。

0120-007-110
(月~金 8:30~17:15)

HP <https://www.moj.go.jp/KIDS/>

※ホームページからメール相談もできます。

児童虐待相談

電話相談窓口による支援を実施。
児童虐待かも?と思ったら「189」(いちはやく)

189
(24時間 無休)

HP <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202011/3.html>

「189」(いちはやく)は、匿名でお電話できます。
電話した人の個人情報や電話の内容に関する秘密は守られます。

子育て支援フォーラム 親子の絆の守唄

【日時】 2024年1月21日(日) 13:30開演
【会場】 盛岡劇場メインホール
【主催】 NPO法人日本子守唄協会
【共催】 社会福祉法人若手愛児会後援会「杏の会」
【後援】 国際ソング盛岡ソングクラブ

雪のない盛岡の冬、威勢のいい子供たちの太鼓で幕開けしたフォーラムは盛岡劇場で開催されました。主催は当協会、みちのくみどり学園の応援で行われ第一部は最近とくに問題化している性暴力を取り上げました。義父から性暴力を受けて育った被害者のユウちゃんが勇気をもって出演してくださり、壇上からご自分の経験、その当時の心境などを率直に話してくれました。実母

【配食で感じたこと】(毎月第二・第四木曜日)
「ただくものが少し同じということもあって、取りに来るのをお休みなさるかたもいらつしやいます。」
お子様が小麦アレルギーのお母さんは、配布の食品を一つ一つ点検し持っていけません。外国から離婚して帰国したお母さんは、二度お見えになりましたが以後いらつしやらないので心配していません。新しく男性おひとり様参加。
働きながら会計士の資格を取り正式に就職したお母さんは、もう二か月ほど助けてくださいと笑顔でおつしやいました。
葛飾区でお困りのお母さん、卒業したお母さんの枠があります。気軽に申し出て下さい。

【スミセイキッズフォーラム
親子の絆の守唄】
【日時】 2024年2月9日(金) 13:30開演
【会場】 板橋区立文化会館大ホール
【主催】 公益財団法人 住友生命健康財団
【後援】 板橋区、住友生命保険相互会社都北支部の会、一般社団法人、Think TOKYO、寺小屋結、よさこい江戸の華、NPOい
たばし子育て支援フrawー

住友生命健康財団のこの事業も長いこと継続させていただいています。
子どもの心身の健康と幸せを願う事業に、協会として0歳児から参加可能な形で子守唄や歌の数々をお届けさせて頂いています。
腹話術のじゅじゅさんの出演、子守唄の父ともいえる詩人松永伍一さんの薫敬を受けて子守唄や叙情歌に精通していらつしやる松原健之さんをお迎えして幕開けしました。

この断絶と恨みが、その傷の大きさと生活にどれほどの影を落としか、話の中で胸の詰まる思いがしました。
現在彼女は、二人のお子様のお母さんで、施設での結婚から家庭を持つまでの心の軌跡を一言一言かみしめながら報告してくれました。自分に寄り添い、自分のすべてを受け入れてくれた施設の先生や同じ施設で育った旦那様に感謝しつつ、絶対に家庭と子供は守るといふ決意を述べてくれました。司会の藤沢先生から、一人では生きていけない現代、地域や大人たちの理解やかかわりがいかに大切かのお話もありました。私は、子守唄協会の仕事からすでに社会が子守唄を歌う時代だという言葉を加えさせて頂きました。

後半はいつものメンバーによる子守唄、童謡、唱歌、など知っている唄から季節の歌までみんな一緒に歌いました。相変わらず、会場の一角にベビーカーが並びました。
お母さんはじめ、多くの参加者の皆様に癒しと幸せをおとどけできたのではないかと思います。
【出演】 稲村なおこ、雨宮知子、岸本あかね(ピアノ)、北村亜弥子(ヴァイオリン)

「母は蛙です」
苗代の土手でおしくらまんじゅうする蛙です
蛇の目が光ります」

「母は焚き木です」トークショー
【日時】 2024年3月3日(日) 14時
【会場】 新潟市砂丘館



右から、近藤征治さん、西館好子、国見修二さん、貝塚恒夫さん

応援がしていただく方がすず

協会の活動にご協力くださいました皆様、ご寄付を有効に使用して頂きます。これからも日本子守唄協会への応援をよろしくお願ひ申し上げます。

2023年4月1日から2024年3月15日現在 五十音順 匿名希望16名(敬称略)

【個人】

- | | | | | | | |
|---|--|--|---|---|---|---|
| 梅田郁子
梅津恒夫
江藤昭子
海老名香葉子
江村清
大石照美
大川幸枝
大河原尚夫
大嶋孝造
大野隆司
大野利可
大山加代子
岡田詠美子
岡本喜久穂
奥村忠一
奥山糸子
長田曉二
小田紀美子
落合美知子
小野静雄
尾原昭夫
帯津良一
小山芳郎
温勢孝子
貝塚津首魚
加賀山昭
春日宏美
片山雅文
加藤和栄
門上崇作
市川君江
市塚廣
伊藤加津子
伊藤信子
伊藤典雄
伊藤守
伊庭桂子
今井要一
今村威
牛崎厚子
白田武正
内野綾子
内野経一郎
鶴野祐介
海勢頭豊 | 北原孝徳
木戸由加里
木下由美子
木邊巴慈
木村賢史
木村康雄
久世明子
国見修二
熊坂貞子
久良木恵子
栗林欽一
下條泰生
叙持英子
小泉晶一
小井土元章
小井土洋一
古川洋文
児玉圭司
小林ヒデ子
近藤征治
小野七重
齋藤現
齋藤進也
齋藤淑子
酒井重美
坂口佳志江
坂野紀多子
坂野美恵子
坂元威佐
佐々木喜久子
佐藤久子
佐藤久光
佐藤一美
佐藤昌詩恵
河原みさ子
神崎那子
蒲原節子
神戸修身
神戸金貴
菊池博之
菊池弥生
木崎啓子
木瀬和子
木瀬公二
北実 | 菅原道夫
菅原芳徳
杉浦あい
杉野善彦
祐川洋子
須崎晃一
須藤善弘
須藤博
須藤悟
田井二郎
高瀬得尋
高田修
高橋展子
高橋和子
高橋佳奈枝
高橋寛
高松榮子
竹中裕子
田代俊一郎
多田式江
田中厚子
田中三智子
田中壮一郎
田中安子
棚澤青路
棚澤牧人
谷利亮
谷藤正人
谷藤祥子
山川忠
玉谷邦博
千野千鶴子
千葉伝
辻木正美
土木正美
東間一喜・定子
徳永雅博
鳥取英記
鳥内智秋
清水悦夫
清水睦夫
白石源次郎
須賀正二 | 菅佐原道夫
菅原芳徳
杉浦あい
杉野善彦
祐川洋子
須崎晃一
須藤善弘
須藤博
須藤悟
田井二郎
高瀬得尋
高田修
高橋展子
高橋和子
高橋佳奈枝
高橋寛
高松榮子
竹中裕子
田代俊一郎
多田式江
田中厚子
田中三智子
田中壮一郎
田中安子
棚澤青路
棚澤牧人
谷利亮
谷藤正人
谷藤祥子
山川忠
玉谷邦博
千野千鶴子
千葉伝
辻木正美
土木正美
東間一喜・定子
徳永雅博
鳥取英記
鳥内智秋
清水悦夫
清水睦夫
白石源次郎
須賀正二 | 奈加靖子
永井真由美
長尾優子
本島富志子
永田亨
中谷比佐子
長繩千鶴子
中根宏昭
永野一昭
永見徳代
中村雅子
中元修治
中山みどり
中山公隆
並木和彦
南部和宏
南部昌宏
西尾まき
西川敏之
西村幸子
庭山正一郎
野尻壽子
則武清司・美佐子
橋野三千夫
八戸保彦
初澤永子
馬場 妙
浜口千枝子
原 昭邦
原田 勉
治田るり子
伴 美喜子
肥田五和子
平野俊興
平野文興
廣畑見祐・心香
廣政真貴子
福井昌平
福井典子
福島昭子
福田かずまの会
街フレ
松戸白宇宙かばぢゃの会
まこと田 | 藤岡寛昌
フジコ・ヘミング
藤澤 昇
藤島寛昌
藤間聖雄
藤森久美子
藤原弘雅
古川洋文
堀合辰夫
本条秀太郎
本多美絵子
本間涉夏
前川敬子
増田善弘
松代洋子
松平静江
松永忠夫
松原健之
黛 一子
黛 治男
三浦敏昭
三浦眞澄
三浦美智代
三浦義孝
三上章道
水島納子
水野晴天
南一三子
宮地勝美
宮尻千恵子
武藤元昭
村井繁雄
村山眞奈美
村山真奈美
森井照徳
盛田好一 | 森田文子
諸星京子
門索邦治
安江和也
安岡富士子
安元 稔・俱子
矢萩昌道
山折哲雄
山川 忠
山口敬明
山口洋子
山下愛仁
山下五郎
山根光恵
山村樵人
山元絵津子
山本やえ子
谷村啓子
結城天鼓
湯川れい子
楊洞康子
横沢裕子
横山 宏
吉岡友次郎
吉川宜範
吉田紀世子
吉田法子
吉田陽子
吉田 博
吉永小百合
米野宗禎
渡邊和壽
渡邊武雄
渡辺久子
渡部由美子 |
|---|--|--|---|---|---|---|

【団体】

- 一善水産株式会社
- NPO法人周防大島ゆきとじくり
- NPO法人安中ひだまりマルシェ
- 株式会社Sプラン
- 株式会社社力ガヤ不動産
- 株式会社致知出版社
- 株式会社社花の企画社
- 株式会社佛蘭西屋
- 株式会社ミルケア
- 学校法人森学園
- セカンドハーベスト・ジャパン
- 全国わらべうたの会
- つるみ芸芸協会
- 坊田かずまの会
- 街フレ
- 松戸白宇宙かばぢゃの会
- まこと田

ご寄付の応援を お願いいたします！

日本子守唄協会の活動は、皆様からの
ご寄付に支えられております。すべての子
ども達が希望に満ちた未来をつかめるよ
う、皆様のお気持ちの託された寄付金を、
様々な活動にいかしてまいります。

ご寄付をいただきました皆様には小冊子
「ららばい通信」、イベントのご案内、ま
た活動報告をお送りさせていただきます。
どうぞ時期や金額に関わらず、年間
を通してご寄付をお願い申し上げます。
ご寄付への詳細は、日本子守唄協会事務
局までお問い合わせください。

皆様からのお便り・ご投稿をお待ちしております。

- ◎子守唄について疑問に思うこと・知りたいこと、子育てについて思
うこと、親子の思い出話などお送りください。思い出の写真など
も募集しております。
 - ◎あなたの町の地域活性化のための活動や育児支援活動、町ならではの
の活動など紹介したい情報がありましたら、ぜひぜひお教えくださ
い。「ららばい通信」を通じて地域の情報交換をしませんか？
 - ◎皆様と共にららばい通信をより良いものにしていきたいと考えて
おります。お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。
- 日本子守唄協会事務局 編集人・西館好子**
〒125-0054
東京都葛飾区高砂3-13-13 三浦ビル1階
TEL 03-6458-0283
FAX 03-6458-0284
Eメール info@komoruta.jp
URL https://www.komoruta.jp/

【寄付振込先】

- みずほ銀行 浅草橋支店
(普)1090012 トクヒ)日本ららばい協会
- 郵便振替口座 00150-3-575309

ららばい通信ご入用の方は当協会にご連絡下さい。
また、保存希望の施設や団体の方も合わせてお申込みくださいませ。